



『けんちゃん と ゲンゴロウ』

①

文 うらたあい
絵 金末 忠則
解説 猪谷 信忠

【解説】

◇表紙イラスト……

けんちゃんが虫かごとタモ網をもって張り切っている様子。

時期は四月後半。農村では田植えの準備が始まっている。

【登場人物の紹介】

◇けんちゃん……

広島に住んでいる六歳の男の子。元気いっぱい。今日は山間の村にすんでいるおじいちゃんの家にあそびに来ている。

◇おじいちゃん……

けんちゃんの祖父。田んぼを作っている。生きものが大好きで、環境に優しい農業をしている。

◇おばあちゃん……

けんちゃんの祖母。おじいちゃんと一緒に田んぼ作りをしている。

◇ドジョウ博士……

おじいちゃんの田んぼに住んでいる。田んぼの世界の案内役で、なんでもよく知っている。

◇ゲンゴロウ君……

おじいちゃんの田んぼに住んでいる。近ごろ環境が変わってゲンゴロウなかがまが少なくなったことを寂しがっている。

けんちゃん

(元気よく)

こんにちは〜!

ぼくは、けんちゃん。

どうして、こんな格好をしているかって?

エへへ……

今日はね、「田んぼの生きもの探険」に行くんだ。

どうしてさうっ。

だれと行くかとさうっ。

ぬ

く



②

けんちゃん ジャー—ン—！

ぼくの、おじいちゃんです！

おじいちゃんは、田んぼの生きものことなら、なんでも知ってるんだよ。

ね、おじいちゃん！

おじいちゃん

そうじゃー。

さあ、けんちゃん、田んぼにでかけよう！

今日は、「ゲンゴロウ」をさがそう。

けんちゃん

(不思議そうに) ゲン・ゴ・ロ・ウ？

おじいちゃん

おうおう、けんちゃんは「ゲンゴロウ」を知らんのお。

《ぬきながら》

「ゲンゴロウ」、ゆうのは、田んぼや池の水の中に住んで……

ぬ
く

【解説】
田んぼの生きもの探検に出発！

◆マナー

- ・農家や地域の方にあいさつをしよう
- ・畦をこわしたり、迷惑をかけないように注意して歩こう
- ・ゴミは持ち帰ろう

◆服装

- ・ぼうし
- ・長ぐつ (はだしでも良いが、長ぐつだと安心)
- ・長そで長スボン (強い日差しや虫刺され、草むらでの切り傷に気をつける)
- ・飲み物
- ・タオルや手ぬぐい

◆持ち物

- ・タモ網、ざる
- ・採集した生きものを入れるケース (バケツ、飼育ケースなど)
- ・カメラやノートなどで記録すると良い

◆注意すること

- ・ひとりや子どもたちだけで行動せず、大人についてもらしましょう
- ・深いため池や流れの速い水路など、危険なところに注意しよう
- ・マムシやスズメバチなど、危険な生きものに注意しよう
- ・ハゼノキ、ツタウルシなど、触るとかぶれる植物にも注意しよう

『けんちゃんとゲンゴロウ』



3

おじいちゃん 大きいヤツは、おじいちゃんの親指ぐらいいも

あるかっこいい虫なんよ。

ほら、図鑑を見てごらん。

これがゲンゴロウ。

けんちゃん わあ〜！かっこいい！！

ねえねえ、早くつかまえにいこうよ！

おじいちゃん でもね、けんちゃん。

昔はいっぱいおったんじゃがお、

今はなかなかおらんのよ。

つかまえられたら、いいのお。

けんちゃん うん！！

それじゃあ、

田んぼの生きもの探険に、出発進行〜！！

ぬ
く

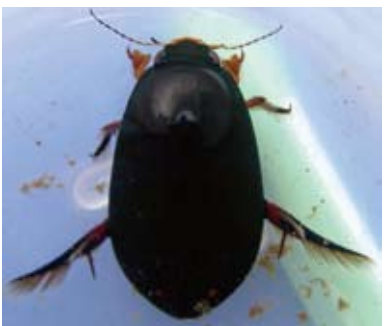
【解説】
ゲンゴロウってどんな生きもの？

田んぼやため池などで暮らす肉食の甲虫（カブトムシの仲間）です。泳ぎや息つきが上手で、水中での生活に適した体をしています。また、飛ぶこともでき、水辺から水辺へと移動します。日本には100種以上のゲンゴロウの仲間が住んでいます。その中で、この紙芝居に登場するのは「ゲンゴロウ」という名前の種類で、体長が34〜42ミリメートルと、日本で一番大きなゲンゴロウの仲間です。他と区別するため「ナミゲンゴロウ」「オオゲンゴロウ」とも呼ばれています。

昔は田んぼの昆虫といえば、タガメがゲンゴロウが代表格で、人気もある昆虫でしたが、今ではどちらもほとんど見ることができないほどに減ってしまいました。



ゲンゴロウ



クロゲンゴロウ



コシマゲンゴロウ



4

けんちゃん

おじいちゃん、おじいちゃん、この田んぼには水がないよ。

ゲンゴロウは、どこにいるの？

おじいちゃん

ほうら、田んぼの横に溝があるじゃろ。

そこにおるかもしれんよ。

この溝は、「ひよせ」と言っんよ。

田んぼに水が入ってないときは、「ひよせ」やら池やら、水があるところにお引越する生きものたちがおるんよ。

けんちゃん

ぷっん。

「ひよせ」かあ。

おじいちゃん、「ひよせ」になにか生きものがあるか、アミですくってみるね！

《アミを水の

中に入れる

音》

(ジャボ〜ン)



【解説】
「ヒヨセ」とは？

田んぼの中にある水路のことです。「よこて」「ややねみぞ」など地域によって様々な呼び名があります。田んぼに入れる冷たい山水を温めたり、田んぼの水を抜いたりする役割をしています。生きもの「すみか」としても大変重要です。



ヒヨセ

春、田んぼの畦に咲く花

◆ 白 シロバナタンポポ

◆ ピンク ノアザミ

レンゲ

◆ 紫 キランソウ

ムラサキサギゴケ

キツネノボタン

ウマノアシガタ

オヘビイチゴ

オオイヌノフグリ

◆ 青



5



トノサマガエル

けんちゃん わらうい！カエルがつかまったよ。

おじいちゃん どれどれ。おじいちゃんにも見せておくれ。

(少しの間を置いて)

おうおう、これは「トノサマガエル」じゃ。

田んぼのお殿さまを捕まえたんじやのう。

けんちゃん へえ〜！「トノサマガエル」っていうのかあ。

よし、今度こそ、ゲンゴロウを捕まえるぞ。

《アミを水に 入れる音》 ジャボーン

けんちゃん あ〜っ！なにかが、アミに入ったよ。

(不思議そうに) これはなあに？

おじいちゃん どれどれ？・・・おお、これはトンボの赤ちゃ

んよ。

けんちゃん ぼく、それ聞いたことがあるよ！

「や・び」っていうんでしょ。

おじいちゃん けんちゃんは、よく知ってるの〜！

ぬ く

【解説】

「トノサマガエル」

田んぼを代表するカエルで、イナゴなどの害虫を食べてくれたり、小型のカエルやミミズなどを食べます。

春、田んぼに水が入ると直ぐにやって来て、かえる合戦をくりひろげ、1匹の雌は1回だけ卵を産みます(卵の数を数えると産卵した雌のカエルの数がわかります)。

オタマジャクシは田んぼで水中のやわらかい植物や落ち葉、動物の死体などを食べて育ちます。また、ゲンゴロウの幼虫のエサになったりと、多くの生きものの命を支えています。

田植えが終わって約2ヶ月ほどたつと、田んぼの水を落とす「中干し」の時期を迎えます。オタマジャクシは手足が生えてカエルになるまでは水の中でしか生きることができませんから、「中干し」は大変な試練です。「ビヨセ」のある田んぼでは、そこが逃げ場となり、無事にカエルになることができます。

トノサマガエルも各地で減少著しく、特に平野部の大規模な田んぼでは姿が見られなくなってきました。

カエルを捕まえてケースに入れる時は、水の入れすぎに注意です。息つきができないと溺れ死んでしまいます。水の深さは、ケース内が湿る程度、カエルが座った時に鼻先が出るくらいにしましょう。

「ヤト」

トンボの幼虫で、「ヤンマの子」からヤゴと呼ばれるようになったと言われています。成虫と同じ肉食性で、折りたたみ式の下唇を伸ばして、オタマジャクシや小さい虫などを捕まえます。また鰓があるので、息つきをしなくても大丈夫です。

ヤゴを捕まえてケースに入れる時、小さな虫やオタマジャクシなどを一緒に入れるとヤゴに食べられてしまいます。ケースをたくさん用意して、大きさや種類ごとに分けて入れるようにしましょう。



6

けんちゃん

見て見て〜おじいちゃん。

いっぱいつかまえられるね。

おじいちゃん

そうじゃのう。

ドジョウに、ミズカマキリ、ひっくり返って泳ぐマツモムシ。イモリもおるぞ〜。

さあ、けんちゃん、そろそろ帰ろうかの。

けんちゃん

は〜い。それじゃあ、

「ひよせ」に、生きものたちを返してあげるね。

おじいちゃん

けんちゃんは、やさしいのお。

けんちゃん

エへへ！

だって、生きものたちも「おうちに帰りたい帰りたい」って言ってるもんね。

ぬく

【解説】

「ドジョウ」
田んぼが主な繁殖場所です。ドジョウの名前も「泥生」から。

「ミズカマキリ」「タイコウチ」
カマキリのような前足で、小さな生きものを捕まえるカメムシの仲間。おしりの先には細長い呼吸管があり、それを水上に出して息つきをしています。

「マツモムシ」

背泳ぎをしているカメムシの仲間。水面で溺れた虫などを捕まえます。カメムシの仲間の口は先がとがっていて、獲物に突き刺して消化液を注入し、溶かした体液を吸うために都合の良い形をしています。刺されるととても痛いので、手持つ時は、口先が指などに触れないよう注意しましょう。

「イモリ」

イモリは漢字で「井守」。「井」とは田んぼの用水のこと、田んぼの水を守る生きものとして親しまれてきました。田んぼに水を入れる頃、水路やヒヨセなどに集まって、交尾、産卵します。



タイコウチ



イモリ



ドジョウ



ミズカマキリ



7

《自動車の音》

ブ~~~~ン

けんちゃん

おじいちゃん、たのしかったよ。ありがとう。
でも、ゲンゴロウをつかまえられなくて、
ちよつと残念だったなあ…。
昔はいつばいいたんですよ。
どうしてゲンゴロウが少なくなったの？

おじいちゃん

この辺りではまだ、ゲンゴロウを見ることが
あるんじやが、「東京では絶滅した」とニュー
スでいいよったで。

ゲンゴロウが少なくなったんはのう、いろん
な理由があるんよ。
田んぼに農薬を使ったり、溝をコンクリート
で固めたりしたからなんよ。
くわしく話せば長~~~~い話になるんじやが
の…。

(少し間をおいて)

おうおう、けんちゃんは疲れて寝てしもうた
んじやのづ。

ゆ~~~~ンとぬ~~~~

【解説】

ゲンゴロウが少なくなったのはなぜ？

ゲンゴロウは田んぼの昆虫の代表格
で、昔は子どもたちが捕まえて遊んで
いました。

しかし、今ではほとんど見ることが
できません。

なぜこれほど減ってしまったので
しょうか？

ゲンゴロウの幼虫が育つ田んぼの環
境がずいぶん変わりました。使う農薬
の種類が変わりました。ゲンゴロウを
殺してしまう農薬もありました。田ん
ぼのつくり方も変わりました。中干し
の時期が早かったりヒヨセがなかった
りすると、幼虫は干からびてしまいま
す。畦や溝をコンクリートで固めてし
まうと、さなぎになる場所がなくなっ
てしまいます。それどころか、農家の
人が田んぼで稲をつくることをやめて
しまつて、ゲンゴロウのすみかである
田んぼ自体がなくなっているところも
あります。

さまざまな理由が考えられますが、
一度減ってしまった生きものを復活さ
せるのは、とてもむずかしいのです。



ゲンゴロウ

『けんちゃんとゲンゴロウ』



8

けんちゃん、夢のなか

ドジョウ博士

(博士の声。起こすように)

けんちゃん…、けんちゃん…。

けんちゃん

(ねぼけて)

ムニヤムニヤ…。

おじいちゃん、まだ眠いよお、ムニヤムニヤ。

ドジョウ博士

けんちゃん、起きてください。

わたくし、ドジョウ博士です。

けんちゃん

えっ!?!?!?!?!(あたりをみわたして)

ここはどこ?!?! ぼく、どうなってるの?!

ドジョウ博士

さきほどは、わたくしを逃がしてください、

どうもありがとうございます。

お礼に、ゲンゴロウ君のところへ連れて行って

あげましよう。

どうぞわたくしの背中に乗ってください。

けんちゃん

わあ、ぼくゲンゴロウに会いたいと思ってたん

です!!

ドジョウ博士、どうぞよろしくおねがいします。

ぬ

【解説】

「ドジョウ」

泥鰌汁や柳川鍋で知られるように、昔から食べ親しまれてきた魚。田んぼや水路などにすんでいます。雑食性で、全長は12センチメートルくらい。5対10本の短い口ひげが特徴で、水底の泥や砂の中にあるエサを探すのに役立ちます。

田んぼが主な繁殖場所、6〜7月に水路から田んぼにやって来て産卵します。しかし、ドジョウが見られる田んぼも少なくなってきました。田んぼの大規模化や圃場整備で、水路の段差が大きすぎたりすると、水中を泳いで移動するドジョウたちは田んぼまで上って来ることができないからです。

生き物にとっては、川ー水路ー溝ー田んぼの水のつながりが大切です。生き物がすみやすい田んぼを復活させようと、水路と田んぼをつなぐ魚道を設置する農家も増えていきます。



ドジョウ



世羅町田打地区の水路と田んぼを結ぶ水田魚道

けんちゃん

わあ、おじいちゃんちの田んぼだ。

ドジョウ博士、あそこで、ぼくのおじいちゃん
が田植えをしていますよ。

ドジョウ博士

ほんとうですね。わたくし、けんちゃんのお

じいちゃんが大好きなんです。

わたくしたち生きものを大事にしながら田
ぼづくりをしていてるんですよ。

けんちゃん

そうだったんだ。ぼくしらなかったなあ…。

あつ、あつちを見て！虫が飛んでるよ！

ドジョウ博士

けんちゃん、あれがゲンゴロウ君ですよ！

春になって水が入った田んぼに、近くの池や
「ひよせ」から飛んで行っているんです。

けんちゃん

ねえねえ、ドジョウ博士。

ゲンゴロウ君は、どうして田んぼにお引越
しするんですか？

ドジョウ博士

それはですね、田んぼのほつが、おいしいご
ちそうがいっぱいあるからなんですよ。

さあ、ゲンゴロウ君に会いに田んぼへ行きま
しょう！

ぬ

く



【解説】
田んぼには、生きものたちの「ごちそう」
がいっぱい

田んぼには、ゲンゴロウの幼虫を
はじめ、多くの生きもののがエサとな
る、オタマジャクシや赤トンボのヤ
ゴ、メダカやドジョウの稚魚、といっ
た生きものがとてもたくさんいます。
田んぼには、生きものたちの「ごち
そう」がいっぱいいるのです。
カエルや赤トンボ、メダカ、ドジョ
ウにとっても、田んぼはとても魅力
的な子育ての場所です。冬の間は水
がなかった田んぼは、春に水がはい
ると「新しい水辺」になります。そ
こには、彼らの卵を食べるような天
敵はまだほとんどいませんし、エサ
となるプランクトンも豊富です。
田んぼは多くの新しい命を育くむ
命のゆりかごなのです。

『けんちゃんとゲンゴロウ』

けんちゃん

(元気がよく大きな声で)

ゲンゴロウ君、はじめまして。

ゲンゴロウ君

(ひそひそ声で。高いかわいい声)

し～し～っ、静かに。

もうすぐ、ぼくの子どもがタマゴからかえるところなんだ。

けんちゃん

(小さな声で) ごめんさい、ゲンゴロウ君。

ぼく、「けんちゃん」といいます。ドジョウ博士に連れてきてもらいました。

ゲンゴロウ君

(少し小さな声で) はじめまして、けんちゃん。

ぼく、けんちゃんのおじいちゃんにはいつもお世話になっているんだよ。

おじいちゃんのおかげでぼくの奥さんは田んぼで卵が生めるんだよ。そうですよね、博士。

ドジョウ博士

そのとおり。ゲンゴロウは、水草のやわらかい茎のなかに卵を生むんです。

けんちゃんのおじいちゃんは、ゲンゴロウたちのために水草を全部ぬいてしまわずに、田んぼに残しておいてくれるんですよ。

けんちゃん

へえ～！

ぼくのおじいちゃんって、えらいんだねえ。

ぬ

く



【解説】

ゲンゴロウの産卵

ゲンゴロウのオスとメスが出会うと水中で交尾をします。交尾をしたメスは6～8月、コナギやオモダカの茎をかじり、そこへ卵を産み付けます。卵を守るための工夫です。

コナギやオモダカといった水田雑草は農家の嫌われものですが、ゲンゴロウをはじめとした水生昆虫が卵を産んで、命をつないでいくのに重要な役割を果たしているのです。

けんちゃん
ゲンゴロウ君、なんか変な虫が、タマゴからかえりましたよ。

ゲンゴロウ君
「変な虫」なんて失礼だなあ、これがぼくの子ども。ゲンゴロウの幼虫なんだよ。

けんちゃん
ゲンゴロウ君、ごめんなさ〜い！
あら？ドジョウ博士、どうしたんですか？

ドジョウ博士
（おびえて）よ、よ、幼虫さんのお、お、大きなアゴで「ガジリ」、とかみつかれたら最後、動けなくなって、わたくしたちは食べられてしまっんですよ。ああ、こわいこわい。

けんちゃん
へえ！ゲンゴロウ君の幼虫は、ドジョウを食べるんだ。

ゲンゴロウ君
（いじわるっぽく）
そう、ぼくたちの幼虫は、おたまじゃくしやドジョウやらをおそって食べるのさ。
ま、幼虫のあかちゃんはドジョウ博士みたいな元気な生きものを襲うことはないから、大丈夫だよ。
それと、ぼくみたいな大人は、弱った魚や死んだ生きものを食べるんだ。

けんちゃん
へえ！そうなんだ。
ぼくにもっとゲンゴロウ君たちのこと教えて！



【解説】
ゲンゴロウは何を食べているの？

ゲンゴロウの幼虫は、オタマジャクシやヤゴ、メダカやドジョウの稚魚、水面でおぼれた昆虫などを食べます。卵からかえってさなぎになるまでは1ヶ月あまりの間に、大きなアゴを武器に動くものなら何でも襲い、最後には8センチメートルほどの大きさになります。

紙芝居に登場するドジョウ博士も、ゲンゴロウの幼虫が小さいうちは大丈夫ですが、大きくなると食べられてしまっかもしれませんね。

ゲンゴロウの成虫は、弱った魚やオタマジャクシ、小さい水生昆虫などを捕えたり、死んだ生きものを食べたりします。幼虫の時のように、あまり強力な武器をもっていないので、生きたエサを捕まえるのは苦手です。成虫は2〜3年ほど生きています。



ゲンゴロウ幼虫

『けんちゃんとゲンゴロウ』



12

ゲンゴロウ君 よし！じゃあ、ぼくたちゲンゴロウについて

のクイズを出すよ。

ゲンゴロウの幼虫は、オトナになる前に、「な

に・か」になります。

そのときは、土の中でじーっとしています。

さて、なにになるのでしょうか。

けんちゃん (少し考えてから) わかった。「さなぎ」！

ゲンゴロウ君 正解！ ぼくたちの幼虫は大きくなると、田

んぼの畦を掘って、おうちをつくり、そこで

さなぎになるんだよ。

けんちゃん、畦ってなにか知ってるよね。

けんちゃん 田んぼのすぐ横の、ドロをもりあげたところ

でしょ。ぼく、畦を踏んでこわしたときに、

おじいちゃんにおこられたことがあるから、

よく知ってるよ。

ドジョウ博士 けんちゃん、ゲンゴロウ君たちはその畦がコ

ンクリートでできていると、さなぎになるお

うちがつくれなくて死んでしまうんですよ。

【解説】
コンクリートの畦だと・・・

ゲンゴロウは幼虫と成虫で、まったく違う形をしています。カブトムシやチョウもそうですね。これらは「完全変態」をする昆虫で、「卵ー幼虫ーさなぎー成虫」という段階をふんで成長するので、『さなぎ』になる場所が必要ですよ。

ゲンゴロウの幼虫はさなぎになる時、水から出て、田んぼの畦をよじ登り、畦の土の中にもぐって、さなぎになる部屋をつくります。田んぼの畦が全部コンクリートで固められていると、さなぎになれずに死んでしまうのです。

『けんちゃんとゲンゴロウ』



13

けんちゃん

ゲンゴロウ君たちが大きくなるのって大変なんだね。

そうだ！ぼくも大人になったら、おじいちゃんみたいにゲンゴロウ君たちが暮らせる田んぼづくりをしようかなあ。

ゲンゴロウ君

本当！？けんちゃん、ありがとう。

ドジョウ博士

わたくしたちドジョウもゲンゴロウ君たちが暮らせるような環境が大好きなんです。

けんちゃん、ぜひぜひお願いしますよ。

けんちゃん

(はりきって) うん！ぼくがんばるぞ〜。
ところで博士、さっきからあそこでぼくたちを見ている鳥がいるんですが、あれは、なんという鳥ですか？

ドジョウ博士

(あせって) 鳥？(叫ぶ) わあっ、あぶない！！
食べられてしまっぞー！にげろ〜！

けんちゃん

《ぬきながら》
わあ〜！早く逃げて〜、ゲンゴロウ君〜、ドジョウ博士〜… ムニャムニャ……

ぬ

く

【解説】
ゲンゴロウも食べられる

オタマジャクシなどを食べるゲンゴロウも、サギや他の動物たちに食べられることがあります。また、人間にも食べられることがあります。
日本でも一部の地域で食用として知られています。中国や東南アジアでは、今も人気の食材です。

おじいちゃん

けんちゃん、けんちゃん、どうした？

なんの寝言をいいよるんか？

ほら、家に着いたぞ。

けんちゃん

え？……ここ、どこ？

おじいちゃん

なにをいいよるんじゃ。

おじいちゃんちに着いたぞ。

けんちゃん

ぼく、夢を見てたのかあ……。 (少しの間)

ねえ、おじいちゃん。

おじいちゃんは、ゲンゴロウ君たちが暮らし

やすい田んぼづくりをしてたんだね。

おじいちゃん

そうじゃ。

おじいちゃんは、ゲンゴロウたちに子ども

ころいっぱい遊んでもろうたけえ、その恩返

しをしよるんかもしれん。はっはっは。

けんちゃん

じゃあ、おじいちゃんのお米は、田んぼの生

きものにやさしいお米なんだね。

おじいちゃん

おまえたちの体にもやさしいお米なんよ。

えっへん。おじいちゃんは、田んぼの生きも

のたちといっしょに、みんなにやさしいお米

づくりをしよるんじゃ。

けんちゃん

わあ、おじいちゃん、かっこいいー！

ぬ

く



【解説】

田んぼの生きものに

やさしいお米づくり

田んぼの生きものが急激に減ってきたことなどへの反省から、自然環境への配慮をしたお米づくりに関心が高まりつつあります。広島県尾道市御調町綾目地区では、地域の方々が中心となって「御調町源五郎米研究会」を立ち上げ、ゲンゴロウなどの生きものに優しい『源五郎米』作りを行っています。そして、生産者と購買者がいっしょになって豊かな自然を守るしくみづくりに取り組んでいます。





15

けんちゃん

おばあちゃん、ただいま〜！

わあい！おむすびだ！！

おばあちゃん

けんちゃん、おかえり。

た田んぼの生きもの探険はどうだった？

けんちゃん

うん！

ゲンゴロウはつかまえられなかったけど、とても楽しかったよ。

それに、ぼく……

けんちゃん

『けんちゃんとゲンゴロウ』



けんちゃん

(少しの間をおいて)

16

ゲンゴロウを守る、かっこいい大人になるって決めたんだ！

おじいちゃんみたいに。

おわり

作 うらたあい
絵 金末 忠則
解説 猪谷 信忠 (せら夢公園自然観察園)

企画・制作 J A尾道市
制作協力 御調町源五郎米研究会
世羅御調の自然史研究会

この紙芝居はJ Aバンク食農教育応援事業の助成を受けて製作しています。

本書の無断複写 (コピー) は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

作者プロフィール

うらたあい

1972年生まれ。福岡市出身。「アルプスの少女ハイジ」や「赤毛のアン」に憧れて育つ。ノートルダム清心女子大学児童学科卒業後、広島県三次市の山里(上田町)に単身で移住し、縁あって結婚・二児の母に。田舎資源デザイン研究所を主宰、主に感性からの環境教育デザインを担当。また、自然派シンガーソングライターとして活動中。上田小学校跡(廃校)を拠点とした「ほしはら山のがっこう」ふるさと自然体験部長。

金末忠則 (かねすえ ただのり)

1947年生まれ。広島県三次市上田町出身。田んぼや山で遊び、おばあさんの昔話をいろいろ端で聞いて育つ。日本デザイン学院卒業後、株式会社みずま工房・佐々木印刷株式会社にて主にグラフィックデザインを手がける。2002年退社後は、農業・地域づくり活動を行いながら、あたたかみのある絵を描くイラストレーターとして活動中。母校である上田小学校跡(廃校)を拠点とした「ほしはら山のがっこう」初代センター長 現在事務局長。

猪谷信忠 (いたに のぶただ)

1984年生まれ。高知県出身。山村でスイバやクワの実をおやつに、地鶏のエサやりに風呂焚き、廁の汲み取りの手伝いをした幼少時代を過ごす。現在、せら夢公園自然観察園(広島県)で、人と生きもの関係をつなぎ直す取り組みに奮闘中。